設立 平成24年 5月15日
開塾 平成24年 9月 8日
発行 令和 3年11月13日
（102号）

中之島ニュース

［事務局］ 〒648-0094
橋本市三石台4-1-15
TEL 0736-38-3669
FAX 0736-38-3680
発行 學塾・中之島事務局

人間学講座
第107

「武士道の変遷　武士道観」

石川真理子 先生

■日本初の武家法

武士という言葉が最初に出て来るのは、実は戦国時代ではなく、古代にすでにその名前が出ています。武士の役割は、王朝や王権、天皇のもとで国家社会の維持を担うことでした。やがて治安維持と領民を守っていくための統率をし、その後幕府誕生以降は政治勢力となっていったのでした。

鎌倉時代に生まれたのが、北条泰時によって制定された御成敗式目です。これは日本で初めての武家法です。それに則って武士たちは行動していたのですが、実はこれは後々の時代までずっと尊ばれてきたのです。徳川家康が江戸幕府を開いたときも、御成敗式目を基本とし、さまざまな時世に応じたことを付け加えていったのでした。それだけではなく、御成敗式目は、寺子屋の教科書にもなっていました。つまり、人としてかくあるべし、ということも記されているこの日本初の武家法は、庶民にまで読まれていたのです。このことからも鎌倉時代の武士の意識というものが、私たち日本人の精神性にとても大きな影響を及ぼしているということがわかると思います。江戸時代は二六〇年の長きにわたり平和でしたから、武士は合戦という役割もなくなり、そのころから官僚化していきました。官僚になるとともに、人々に対し、人としての規範を示す役割を担うようになりました。公家や貴族と違うところは、武士は雲上人ではなく、庶民と同じように土着の人間であることです。庶民にとって武士は生きた手本の存在だったのでしょう。

■武士の職分とは

江戸時代には「士道」という言葉が誕生しました。山鹿素行は、武士という職分としての倫理学をわきまえよ、自覚されるべき武士の職分とは、人倫の道を天下に実現することである、と示しています。武士は農民のように農地を耕すことも商人のように経済をまわしているわけでもない、そういう武士は何をすべきなのか。人々の上に立ち、規範を見せることであると。人として美しいあり方というものを言葉よりも姿、生き様で教えよ、ということなのです。具体的には「日々の一挙手一投足にまで「威儀」を正すべし。視聴・言語・飲食の慎みから、容貌・顔色・歩き方に至るまで実現されなければならない。日常の些細なことにおいても威儀を崩してはいけない」（『山鹿語録』意訳）とあります。日本人は神さまと一緒に暮らしている、ということがごく当たり前です。自分の立ち居振る舞いや身なりなどもいい加減なことをしないというのは、神さまからいただいたこの身を大切にすることにつながります。だからこそ瑣末と思えることまでも正していくことが当然なことであったのです。

■美を基準にする

コロナ禍という言葉が日常に聞かれるようになりましたが、そういう事態ではなくとも、私たちは常に死と手を繋いでいる存在です。人は死ぬ。いつ死ぬかは分からないからこそ、いつかお返しするこの身を大切にし、丁寧に生きて、明日その日が来たとしても悔いなく「ありがとう」と言える生き方をすることは、世の中がどんな状況になっても変わることはありません。ぶれない生き方を思うとき、令和時代のいまも、民族の心としての武士道を実践していく大切さは変わりないと思います。

むしろ鎌倉時代の武士のあり方は、今の時代に合っているのではないか。コロナ以降リモートワークも進み、良い意味での個人主義となってきました。個人主義が進めば進むほど自己責任が伴います。これからますます自分の一挙手一投足に責任が生じる時代となり、能力主義となっていく。いかにしてこの自分を世の中に活かしていくのか。過渡期にはさまざまな問題も起こるでしょうが、それぞれがそれぞれの能力を活かし、社会に貢献していかねばならない時代です。これまでのように右に倣えでは立ちゆかなくなるでしょう。この厳しい時代が私たちに自分の足で立つチャンスを与えてくれている。人がそれぞれの個性を活かし立つことで、人と人が支えあうことが生まれます。みんなそれぞれが頼りになる。これはまさに健全な社会のあり方だと思っています。長らく個性の時代と言われながら没個性を求められてきましたが、それではもう立ち行かない。私たちはそれぞれが固有の尊い存在であり、もっと自分を活かしていかねばならない。そうして自分の足でしっかりと立つとき「強さ」が求められます。その強さとは何か。つぎの五つを挙げたいと思います。

＊受け入れ、認めることができる。
＊決めることができる。
＊変わることができる。
＊忍ぶことができる。
＊弱さを知っている。

そしてさらに、今この時代に必要なことは「美を基準にする」ということだと思います。美しいかどうか。正しいか間違いかは、状況、時代、立場によって変わっていくもの。しかし美しさには普遍性があります。歴史を鑑みたとき、日本人は美しいかどうかを判断基準としてきました。武士道も美意識、美学です。この考え、言葉、表情は美しいかどうかを自分に問うてみたときに、必ず答えはパッと出る。自然は見事に調和していて美しい。自然が教えてくれるように、美しいものは調和しており、愛そのものです。私たち民族は本来調和を実現している民族でもあるからこそ、あまり争わないのではないでしょうか。愛、慈悲があるということはなによりも強さでもあるのです。

（抄録　中川千都子）

《感動語録集》

◆ 石川真理子先生

「武士道の変遷　武士道観」

＊日々の実践「時を守り 場を清め 礼を正す」さらに「身を整え 行動を整え 心を整え」て、五感を拓く。

＊「野生の勘を鍛えて生きる」戦後教育で物質文明に流されてヌクヌクとした生活で、本来の五感がぼけてしまっているのを再確認させて頂きました。

＊〝自己責任〟と聞いてハッ!!としました。

＊善悪、正・誤は立場状況で変わる。

＊自分の幸福は、まわりの人の幸福につながる。

＊武士の職分とは、人倫の道を天下に実現することである。

＊いかに女性の果たす役割が大きかったか。（曾祖父のことば）

＊危機の時代は、五感が大切。

＊死と手をつないで生きている。（一日を丁寧に生きる）

＊本来武士道は「慈悲」に基づいたもの。

＊忍ぶ（耐える）ことと勇氣は表裏一体。

＊〝助けて〟（弱さ）といえるのは強さである。

＊人に敬意を表すことと自分に敬意を表すことは同じ。

＊美は「調和」「愛」＝強さ

＊その考え方の「ことば、表情」は、美しいか？

＊神の国に生まれた限り、日本人として生活するには、細かい武士時代の良い行いを今世の時代にも守ること。

＊個人主義は中世の鎌倉武士の生き方。能力主義になってきた今、自分の才能を世の中に活かしていく時代になった。

＊五感を拓くことで、感性・感受性が豊かに深く人生を楽しめると思いました。実感しています。

＊日常の一挙手一投足にまで威儀を正すこと、小さな日常の行動を丁寧に努めることの重要性を再認識。

＊コロナ禍に振り回されず、一日一日を大切に生きたい。

＊武士が居なくなってからの武士道には、「本来のあるべき慈悲・慈愛が語られていなかった」とのお話しには驚きでした。

自分を大切にせずして、まわりの人々に丁寧に接しられないとのことばを大切にし、日々過ごしてまいります。

＊才能は世の中に活かして輝くもの。

＊世の中がどういう状況になろうと変わらない心、風林火山のように生きる。

＊「美」が判断基準　＝　生き方、あり方の美学。

＊身を整え、行動を整えることは、心を整えること。

＊物事を、正・悪でなく美しいかどうかを基準とする。

＊「支え合い」が「依存し合い」になってないか。

＊「自分の足で立つ為には強さがいる」＝　受け入れる。

＊頭角を現すリーダーほど、上に行けば行くほど謙虚に！

＊神様と一緒に暮らしている。自分の一挙手一投足を謹む。

《塾生の本棚から》

嶋田　泉　塾生

金魚の町・大和郡山の嶋田です。

中年の今となっては体力・気力ともきついですが、朝四時起床・五分の潔め！・読書を心がけています。

大病後の二〇一一年元日から始め、〝粘りとしつこさ〟だけで継続しています。

ただいまお気に入りな本は次の二冊です。

『世界のエリートはなぜ「美意識」を鍛えるのか？』山口　周氏著と、『言志四録』佐藤一斎先生著

一冊目の本にはまず、これからは美意識～！　ビビッと来ました！

何となくこっちの方がいいね！と直感的に数値化できない感覚を形にしたり、わくわく・あそび心をそそるビジョンを熱く語ったり、多くの人、閃きや価値観を結びつける魔法の杖を投げ掛けられました。

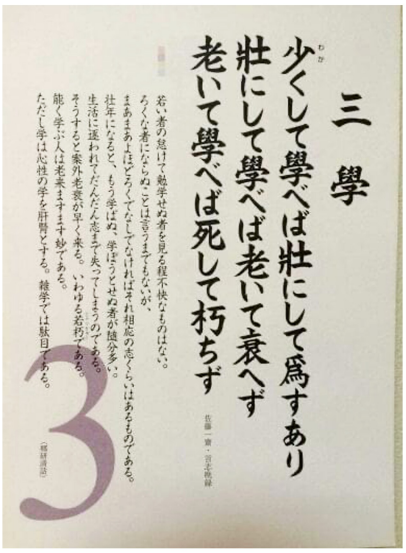
この美意識とは実は、昔から日本人が日常的に大切にしてきた価値観ともつながるのではないかと感じており、古典『言志四録』と併せて読むことで、深みも増すのではと自身に希望を込めて味読中です。

この佐藤一斎先生は、今でいう東大総長で、西郷どん、吉田松陰など多くの方に影響を与えた方です。

大病時入院が決まった時、この本は持ち込もうと何となく決めた本。再読でしたが一句一句がビシッと響いてきて、全く異なる解釈が浮かんできました。今では座右の書のひとつ、日々書写をしたり、別著者の書を参考にしながら読み込んでいます。ゆくゆくは、西郷どんのごとく一〇一章をお借りして、心の軸にできるものを設けられたらなぁと思っています。

☑少（わか）くして学べば、則ち老いて衰えず。
　壮にして学べば、則ち死して朽ちず。

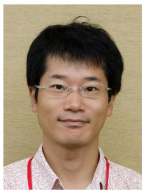
☑一燈を提げて暗夜を行く。暗夜を憂うること勿れ。
　只だ一燈を頼め。



第十期入塾のテーマ
継続入塾の方々
そのⅡ

西尾千恵子

感動したことを実践に繋げ、伝える。楽しいこと、嬉しいことに焦点を当て、奇跡的に授かった生命に感謝して、日々を過ごす。喜びの種まきができる生き方を目指す。



柴原啓司

第十期より世話人として、より深く人間学塾を味わうことができますこと、大変嬉しう思います。中川千都子代表を支え、皆様にご奉仕する一年にしたいと思います。

横井　康

第一〇期も学ばせていただけることに感謝します。自分の健康と家族の健康・サポートを有難く感じる日々です。人生二度なし！いいご縁の日々を大切にしたいと思います。

登録塾生の方々!!

愛原啓介

「弱い人ほど許せない、強い人ほど気にしない」の言葉を胸に、アンガーマネージメントできる自分でありたい。

植田國義

あらためてのご縁と出会いに感謝。まさに縁尋機妙・多逢聖因です。皆様よろしくお願いいたします。

宇田正徳

私は小学校教師をしています。最近数年間は、週末に自宅で仕事ばかりしており、引きこもり生活に陥っていたところ、松本様からお誘いをいただきました。深く感謝しています。

大西由香

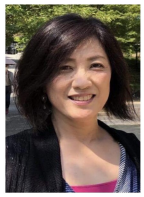
今期は登録塾生でお世話になります。充実した「中之島ニュース」を隅から隅まで楽しみ、感じた事をキチンと言葉で伝えられる人になりたいと思っています。

楠生　聡

Like a merciful Ojizo-san

小林礼治

現在東京に単身赴任しており、久しぶりに登録塾生として参加させていただきます。毎回の中之島ニュース楽しく拝読しており、改めて一緒に勉強させてください。



中村美智留

「子どもたちが、自分とは違う相手を想い、手を差し伸べる事で、お互いが笑顔になれる社会」のきっかけ創りとなれる活動の輪を広げていきます。

西川由美子

今期は休塾ですが、来期は入塾出来ます様に生活を整えていきます。要望はズーム塾生ができれば、全国に人間学塾・中之島会員が増える気がします。ありがとうございます。

林　秀宣

本気とは、逃げられない所に身を置くこと。すると本腰が入る。本腰を入れると真の力が出てくる。その姿勢を何十年も続けることで、やっと本物に近づく。これを目指して一日一日悔いなく生かせていただきます。

藤　久晃

人生の折り返し点も疾うに過ぎ、日々の仕事を本義としながらも、これまでの恩返しと地域社会への貢献を意識して、引き続き自分ができる事を一つづつ積み重ねていこうと思います。皆様、どうぞ宜しくお願いいたします。

松田泰英

毎日を大切に過ごす。

《人間学塾・中之島》次月日程

【12月日程】

◆日　程　12月11日（土曜）　受付　午後０時～

◆会　場　大阪市中央公会堂
大阪市北区中之島一丁目一－二七
二階（六・七・八会議室）

◆**第一部**　13時～15時

講　師　**上甲　晃先生**

「いまこの瞬間に　懸命!!」

1941年　大阪市生まれ。1965年松下電器産業（株）に入社。1981年財団法人松下政経塾に出向。理事・塾頭を歴任。1996年退社し志ネットワーク社を設立。1997年『青年塾』を創設。現在第24期生を迎え、累計約2200名を超える。主な著書『志のみ持参』『人間として一流をめざす』『志を教える』『志を継ぐ』など著書多数。

◆**第二部**　15時15分～17時

講話ＤＶＤ放映

講　師　**執行草舟先生**

「現代と死生観」

第九期のカリキュラムが延期になっていましたが、現況のコロナ感染者数減少により、放映に至りました。

1950年　東京生まれ。立教大学法学部卒。実業家、著述家、歌人。生命の燃焼を軸とした生き方を実践・提唱している生命論研究者。著書に人生論『生くる』（講談社刊）人間の老いについて語った共著『耆に学ぶ』（エイチエス刊）（寺田一清名誉顧問他共著）横田南嶺老師と禅と武士道の真髄を語った対談本『風の彼方へ』－禅と武士道の生き方－『現代の考察』（ＰＨＰ研究所刊）その他著書多数。

終了　17時30分

《芳信抄》

入塾式おめでとうございます。学ばれる皆さんに敬意を表します。

日本の教育は、知育が主となり人間としての心を養うことがおろそかにされてきました。このような中にあって徳を養う皆様に深く感謝申し上げます。

埼玉県　**山下武彦様**

入塾式のご様子に真剣な決意が力強く感じられます。それらを支えておられるのが森先生の教えであり、それを伝えていこうとされる寺田先生や、講師、事務局の方々のお心かと拝察します。

宮城県　**加藤秀夫様**

みなさまの抱負・希望の挨拶にたゆまぬ研鑽する姿を拝見し、力強さを頂きました。皆様の実践活動に敬意の限りです。

埼玉県　**大出雅一様**

お一人お一人の皆様の表情が良いですね。これからの覚悟も良いと思います。寺田先生のメッセージもあったことも大変良かったと思いました。今季も大いに期待が持てそうですね。

愛媛県　**桂　誠司様**

入塾の皆様の志が大変素晴らしいです。コロナ感染者数も減少し、以前のように戻りますよ。でもリモートも便利ですね。

鹿児島県　**中島和之様**

皆様の心意気、素晴らしいですね。橋本美津枝様の存在、大きいですね。懐かしい皆様がたくさんおいでで、私も混ざって学びたい思いです。

愛知県　**坂部智一様**

皆様の学びと教えがメッセージから伝わってきます。徳の高い方々が徳を積み上げられるお姿に学ばせて頂いております。塾生の方々の〝期限を守り〟は、祈るばかりです。

岡山県　**柴田久美子様**

塾生のみなさまの凛々しいお姿に私自身勇気を頂きました。共に学ばせて頂くことを、お許しいただければ幸いです。

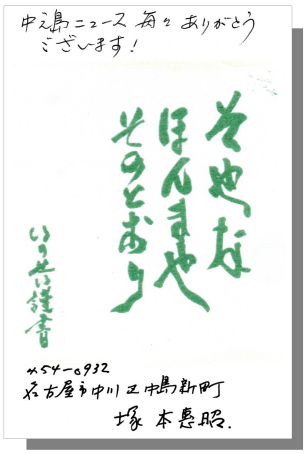
《わたしのハガキ道》　岩崎二三子 塾生

私が絵手紙に出会ったのは今から30年近く前です。娘の後を継いで習字を習い始めました。その習字の先生から絵手紙も教えて頂きました。習い事は継続しませんでしたが、絵が好き、花が好き、猫が好きが重なり自分流に時々書いてきました。

文章を書くことの苦手な私にとって、はがきは手軽です。絵の大きさで文字数も調整出来ます。自分の心の赴くまま便りさせて貰っています。

昔は携帯もパソコンもありませんでした。連絡手段は黒電話と手紙やはがきです。家には娘時代からの手紙やはがきが衣装箱にいっぱい残っています。手紙やはがきの方が味があると感じるのです。

〈僕の気持ち〉
僕の名前はアメオ
アメショーとキジトラのハーフ
この家に来て９年
お母さんに怒られてばかりの僕
でも最近はお母さんは僕を怒らない
それは僕が不治の病になったから
母さんは僕を少しでも長生きさせようと病院へ連れて行く
でも僕病院嫌いなんだ
お母さんが人間がやさしくて　仲間と仲良くできて
おいしいものが食べられて　陽だまりの中で昼寝ができたら
　僕最高なのだ!!



愛知県　**塚本恵昭様**